第1回検討会における意見の反映事項（第1章から第4章）

資料4

項目	頁	指摘事項	反映事項
第2章 (3)	10	洪水と土砂災害など、複数の災害リスクを抱えている施設があることから、**複数の災害リスクに留意が必要である**旨を記載するとよい。	「洪水や土砂災害など複数の種別の災害リスクが想定される場合には、それぞれの災害リスクについて整理した上で記載する必要があります。」を追記
第3章 (2)	21	通所施設は事前休業により多くの命が助かることにつながる。今回事前休業の項目を追加することは大変よい。特に、**事前休業を躊躇無く実施するよう強調**して記載するとよい。	「通所型の施設の場合は、事前休業を選択することが、より確実に人命を守ることにつながるため、事前休業の実施基準を満たした場合は、躊躇することなく事前休業の実施を判断することが重要です。」を追記
第3章 (4)	23	避難誘導のための人員確保は施設にとって容易ではないことから、**外部の避難支援協力者の協力は重要**である。	「施設職員だけでは施設利用者の避難支援要員を確保することが容易ではない施設も想定されることから、地域住民や施設利用者の家族、地元企業等の外部の避難支援協力者の協力体制を確保することが重要です。」を追記
第4章 (1)	25	施設の判断を支援するため**避難先選定のフローチャートのようなものを示す**とよい。	「図 10　避難先選定の考え方」を追記
第4章 (2)	26	避難確保計画と非常災害対策計画を一体的に作成する場合、水災害の他に、地震等も含めて作成することになるので、**災害の種類に応じて書き分け出来るように**するとよい。	「避難確保計画と非常災害対策計画を一体的に作成する場合は非常災害対策計画が地震や火災等も対象としていることから、それぞれの災害の種別に応じた避難先を適切に選定する必要があります。」を追記
第4章 (2)	27	避難先は、利用者の特性によって異なる部分（医療依存度が非常に高い方だと、**電源確保というのが必須の事項**になるとか）について、手引きのなかで書き分けるとよい。	「施設利用者の特性に応じて体調管理や不安感の軽減を図る等の観点から選定する避難先が適切なところであるか、現地を含めて事前に確認しておく必要があります。」を追記
第4章 (4)	27	避難方法は、利用者の特性や個々の施設の特性によって異なる部分（医療依存度が非常に高い方だと、電源確保というのが必須の事項になるとか、**グループホームと大型の施設では職員配置なども全く違う**）について、手引きのなかで書き分けるとよい。	「施設の特性によって職員の配置も異なります。本項には、施設利用者や施設の特性に応じて、どのような方法で避難するかを記載しましょう。」を追記

第1回検討会における意見の反映事項（第4章から第10章）

項目	頁	指摘事項	反映事項
第4章（5）	28	避難時間について、立退き避難を前提にした記載になっているようだが、立退き避難と屋内安全確保では避難開始のタイミングや避難時間が異なるため、**立退き避難と屋内安全確保は書き分け**たほうがよい。	「立退き避難と屋内安全確保では、避難に要する時間と避難開始のタイミングが異なる場合が想定されるため、留意が必要です。」を追記
第4章（6）	29	**緊急安全確保を安易に考えてはいけない**ので、まずは、事前の避難のことを明記した上で緊急安全確保について書いたほうがよい。	「いずれにしろ、警戒レベル5緊急安全確保の段階で避難を開始するような事態にならないように、前項で定めた避難開始基準に従った事前の立退き避難や屋内安全確保により、施設利用者の安全を確保することが重要です。」を追記
第5章（1）	30	入所施設における**非常用電源の燃料については**、ある程度**長い時間稼働**できるように確保することを記載するとよい。	「非常用電源を設置する場合は、稼働時間に応じた燃料の確保にも留意が必要です。」を追記。図11「避難に必要な設備の考え方（参考）」を追加
第6章（2）	32	**避難支援協力者や利用者の家族向けの防災教育**についても記載するとよい。	「防災体制確立時の統括指揮者や各役割のリーダー、一般の施設職員に防災知識を習得させるためには、平時から計画的に防災教育を実施することが必要です。」を追記
第6章（4）	33,34	訓練結果の振り返りのためには、**訓練時に目的と目標を設定することでチェックしやすくなる**ことを記載するとよい。（参考：米国AAR（After Action Review）では非常に簡単な4項目を書かせることでボトルネックを抽出しやすくなる。）	「振り返りにあたっては、訓練前に目的と目標を設定することが必要であり、米国AAR（After Action Review）の考え方を参考にして訓練を実施すると良いでしょう。」を追記。AARの説明も追加
第10章（2）	57	理想的なタイムラインを作成するだけでなく、**タイムラインに沿って行動できなかった時の対応を考えたもの**にしておく必要があることを記載するとよい。 タイムラインは、**災害のパターンや避難先に応じて作成する必要**がある。また、タイムラインで想定していない状況になった場合にも柔軟に対応できるような内容にする必要があることを記載するとよい。 タイムラインは**日中と夜間や施設の特性などに応じたものを作成する必要**があることを記載するとよい。 タイムラインを**施設職員で共有**することが重要であり、共有の仕方についても記載するとよい。	「タイムラインは、災害のパターンや避難先、日中や夜間といった避難する時間帯、施設の特性などに応じて、複数のケースのものを作成しておくことが必要です。作成したタイムラインは、避難確保計画とともに、平時から施設職員や避難支援協力者等に訓練や防災教育を通じて共有しましょう。 また、タイムラインで想定していない事態になった場合にも、適切な判断と対応によりリカバリーすることができるようにしておくことが重要ですので、避難訓練を重ねて、災害対応力を高めていくことが重要です。」を追記